

NT

NISSEKI TOKYO

2019
Spring

Vol.21

特集

私たちは、 忘れない。

— 災害から学び、備える —

平成が終わっても、「私たちは、忘れない。」

過去を思い出すことだけではなく、これからの未来に起こりうる災害に対して学び備える。過去の災害で被災された方々の経験を無駄にせず、それを教訓に未来を生き抜く。「同じ思いをしてほしくない。」この思いに応えるためにもしっかり備えて自分や大切な人を守り抜く。後からはできないが今ならできることがある。



04 そうだったのか!! 赤十字活動資金の使い道

06 れっどくろず News&Topics

08 **特集**
私たちは、忘れない。
―災害から学び、備える―

18 **Hospital Referral**
武蔵野赤十字病院／大森赤十字病院／葛飾赤十字産院

21 **献血 NEWS**

22 **福祉施設 NEWS**

23 **国際 NEWS**

24 行け!OLレポーター オカモト★ **日赤とつげきレポ** ―vol.15 akiba:F献血ルーム編―

25 **NT information**

26 **赤十字Supporters**

27 **活動資金協力者(社)・団体のご紹介**

28 **プレゼント**

30 **Rediscovery TOKYO** ―第14回 新宿―

vol.21
Spring

Contents

■台風第10号災害(8月～)
■鳥取県中部地震(10月)

2017年(平成29年)

■九州北部豪雨災害(7月～)
■台風第18号災害(9月)
■台風第21号災害(10月)

2018年(平成30年)

■草津白根山噴火災害(1月)
■大阪府北部地震(6月)

西日本豪雨災害
(6～7月)



7月3日から8日にかけて台風7号が接近、梅雨前線の停滞も重なり、西日本から東海地方にかけて記録的な大雨となり、多くの犠牲者が出た。日赤は医療救護班などを派遣。救護所や避難所への巡回診療を行った。

北海道胆振東部地震
(9月)



9月6日、胆振東部を震源とするM6.7の地震が発生。北海道で史上初めて震度7を記録し、土砂崩れにより多くの犠牲者が出た。日赤は医療救護班やDMAT(災害派遣医療チーム)、災害医療コーディネートチームを派遣し、支援を続けた。

2012年(平成24年)

■茨城県等における竜巻災害等(5月)
■7月3日からの大雨(7月)
■7月九州北部豪雨(熊本県広域大水害・福岡県豪雨災害・大分県大雨災害)(7月～)
■8月13日からの大雨(京都府南部豪雨災害)(8月～)

2013年(平成25年)

■7月26日からの大雨災害(7月～)
■8月9日から東北地方を中心とする大雨災害(8月～)
■8月23日からの大雨災害(8月)
■埼玉県・千葉県における突風災害(9月)
■台風第18号大雨災害(9月)
■台風第24号災害(10月)
■台風第26号および第27号災害(伊豆大島)(10月)
■秋田県由利本荘市土砂崩れ事故(11月)

2014年(平成26年)

■2月14日から的大雪災害(2月)
■盛岡市林野火災(4月)
■台風第8号災害(7月)
■台風第11号および第12号災害(7～8月)
■広島市土砂災害(8月)
■御嶽山噴火災害(長野県)(9月)
■長野県神城断層地震(11月)

2015年(平成27年)

■鹿児島県口永良部島噴火災害(5月)
■台風第18号等大雨災害(9月)
■阿蘇山中岳の噴火災害(9月)
■台風第21号(与那国町)災害(9月)

2016年(平成28年)

熊本地震
(4月)



4月14日、16日と短期間に2度も最大震度7の大地震が発生。死者255人、住家被害20万5641棟、最大避難者数は18万3882人にのぼった。4月30日までに、震度5弱以上を含む体を感じる地震が4484回。余震の恐怖から車中泊を続ける被災者も多く、エコノミークラス症候群の発症事例も数多く報告された。

■台風第14号災害(9月)
■豪雪による災害(12月～翌3月)

2006年(平成18年)

■梅雨前線による大雨(7月)
■台風第13号災害(宮崎)(9月)

2007年(平成19年)

■能登半島地震災害(3月)
■梅雨前線および台風第4号による大雨災害(7月)
■新潟県中越沖地震(7月)

2008年(平成20年)

■岩手・宮城内陸地震(6月)
■岩手沿岸北部を震源とする地震(7月)
■7月28日からの大雨災害(7月)
■8月28日からの大雨災害(8月)

2009年(平成21年)

■7月21日からの豪雨災害(7月～)
■台風第9号災害(8月)
■駿河湾を震源とする地震(8月)

2010年(平成22年)

■7月12日からの豪雨災害(7月)
■10月20日からの大雨災害(10月)

2011年(平成23年)

■霧島連山・新燃岳の火山活動(1月～)

東日本大震災
(3月)



3月11日、M9.0、最大震度7の大地震により、東北から関東地方の太平洋沿岸部に最大40メートルの巨大津波が襲いかかり、壊滅的な被害を出した。地震と津波による死者1万9667人、行方不明者2566人、全壊家屋12万1783棟。福島第一原子力発電所の事故により、被害はさらに深刻化した。日赤は発災直後から医療救護班を派遣。医療救護やこころのケア活動などに加え、介護や看護のチームも派遣した。海外からの救援金による復興支援事業も展開した。

■新潟県・福島県における大雨災害(7月)
■台風第12号災害(9月～)

■高知県集中豪雨災害(9月)

1999年(平成11年)

■6月23日からの大雨災害(6～7月)
■台風第18号災害(9月)
■10月27日・28日の大雨災害(10月)

2000年(平成12年)

■有珠山噴火災害(3月～)
■三宅島火山活動と近海を震源とする地震災害(6月～)
■東海地方豪雨と台風第14号災害(9月)
■鳥取県西部地震災害(10月)

2001年(平成13年)

■芸予地震災害(3月)
■高知県西部大雨災害(9月)
■台風第15号災害(9月)

2002年(平成14年)

■兵庫県宝塚市での山林火災(3月)
■台風第6号災害(7月)
■9月16日からの大雨災害(9月)

2003年(平成15年)

■梅雨前線による大雨災害(7月)
■宮城県北部連続地震災害(7月～)
■台風第10号による日高周辺大雨災害(8月)
■台風第14号災害(9月)
■十勝沖地震災害(9月)

2004年(平成16年)

■新潟・福島豪雨災害(7月)
■福井県豪雨災害(7月)
■台風第23号関連災害(10月)

新潟県中越地震
(10月)



震度7の大地震が10月23日、新潟県中越地方で発生。死者68人、負傷者4805人の大きな被害に。地震後の余震も多く、約9000人が仮設住宅での生活を余儀なくされた。日赤は仮設診療所「dERU」が本格稼働させ、救護活動の拠点とした。

2005年(平成17年)

■福岡県西方沖地震災害(3月)
■宮城県沖を震源とする地震災害(8月)

■能登半島沖地震(2月)
■北海道南西沖地震(7月)
■鹿児島県豪雨災害(7～8月)
■台風第13号災害(9月)
■11月大雨・強風災害(11月)

1994年(平成6年)

■大阪府および兵庫県における豪雨災害(9月)
■宮城県における豪雨災害(9月)
■北海道東方沖地震災害(10月)
■三陸はるか沖地震災害(12月)

1995年(平成7年)

阪神・淡路大震災
(1月)



1月17日、淡路島北部を震源としてM7.3の大地震が発生。死者・行方不明者6434人、建物は全壊10万4906棟、半壊と一部損壊合わせて53万4780棟、ピーク時の避難者31万6678人の大規模都市災害となった。日赤は3月31日までに医療救護員を延べ5959人派遣し、3万8359人を救護。被災者だけでなく救護員の震災ストレスケアにも関心が集まり、こころのケア活動を強化する契機に。この年は「ボランティア元年」とも言われた。

■新潟県北部地震(4月)
■7月・8月の豪雨災害(7～8月)
■台風第14号豪雨災害(9月)

1996年(平成8年)

■茨城県西部ダウンバースト(7月)
■宮城県北部地震災害(8月)
■蒲原沢土石流災害(12月)

1997年(平成9年)

■奥伊吹スキー場雪崩事故(1月)
■群馬県安中市山林火災(3月)
■山梨県勝沼町山林火災(3月)
■秋田県鹿角市の土石流災害(5月)
■鹿児島県薩摩地方を震源とする地震(5月)
■7月梅雨前線大雨災害(7月)

1998年(平成10年)

■新潟県豪雨災害(8月)
■関東北部と東北南部を中心とする大雨災害(8月)
■台風第5号および第7号災害(9月)

平成の災害 1989-2018

※主な災害を抜粋

1989年(平成元年)

■伊豆半島東方沖海底火山噴火(7月)
■台風第11号災害(7月)
■8月豪雨災害(7～8月)
■台風第13号災害(8月)
■台風第17号災害(8月)
■9月大雨による災害(9～翌4月)
■9月12日からの雨(9月～)
■台風第22号災害(9月)

1990年(平成2年)

■九州集中豪雨災害(6月)
■9月集中豪雨災害(9月)
■台風第19号災害(9月)
■青森県南部および宮城県大雨災害(10月)
■東北・北海道大雨災害(11月)
■千葉県竜巻災害(12月)

1991年(平成3年)

雲仙普賢岳噴火災害
(5～7月)



6月3日に大規模な火砕流、その後土石流も発生。死者・行方不明者44人、家屋や非住家の焼失・被害は2511棟にのぼった。日赤は医療救護や救護物資のほか、温泉入浴やレクリエーションなど被災者を精神面で支える活動も展開した。

■台風第12号災害(8月)
■台風第17号災害(9月)
■台風第18号災害(9月)
■台風第19号災害(9月)

1992年(平成4年)

■台風第10号災害(8月)
■台風第11号による大雨災害(8月)

1993年(平成5年)

■釧路沖地震(1月)

そうだったのか!!

赤十字活動資金の使い道

平成には、数えきれないほどの多くの災害が発生しました。歴史の中で蓄積してきた災害救護の一つひとつの経験は、私たちに多くの教訓をもたらし、今日の「人を救う」救護の基盤となっています。いつ、どこにいても大切な人に手を差し伸べられるように。そして未来の被災者をひとりでも少なくするために。赤十字はこれからも、災害と向き合い続けます。今後、発生が危惧される首都直下地震に備えるためにも、いま皆さまのご支援が必要です。

皆さまからのご寄付 (赤十字活動資金)



1



日本赤十字社
ご寄付が届きます

平時の備え

2

災害時に迅速に対応するため、災害救護訓練、資機材の整備、ボランティア育成等を行っています。



災害救護訓練

被災地で迅速に医療救護活動を展開するため様々な災害を想定した訓練を実施。



ボランティア育成

災害時はもちろん、日頃から地域・学校で活躍するボランティアを育成します。



日頃やっていないことは、いざという時にできない。

3

災害発生

日本赤十字社が総力をあげて対応

■主な救援物資



緊急セット



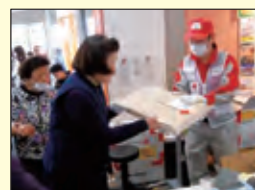
安眠セット



毛布

少しでも体を休めていたたくために。

救援物資の配布



被災地での活動

4

被災地へ出発



医療救護班や救援物資は、陸、海、空、様々な手段で被災地へ

準備完了!

ボランティアと共に必要な物資を準備

被災地で行う活動 1



医療救護

被災地の医療ニーズに合わせ、救護所の設置や巡回診療を行います。

被災地で行う活動 2



こころのケア

災害はここにも大きな傷を残します。少しでもこころが休まるよう寄り添います。

被災地で行う活動 3



血液製剤の供給

全国の血液センターが連携し、災害時も必要な血液を安定的に供給します。

地域防災力の向上

地域の自助・共助の力を高めるため、いのちを守る知識と技術を伝えるセミナーを実施しています。



5

未来へつなげる

過去の災害救護で培った経験を忘れずに、未来へつないでいきます。



きげんはっけん!



子どもたちへの防災教育

未来を担う子どもたちへ、自然災害の正しい知識と、自ら考え生き抜く力を。

赤十字では毎年5月を「赤十字運動月間」として活動を広くPRし、活動資金へのご協力をお願いしています。

ご支援・ご協力をお願いします

「救いたい」の気持ちが届くまで。

活動を共有、みんなでエクササイズも 赤十字ボランティアフェスティバル



レスキュー部が元気に発表

東京都支部は赤十字ボランティアの情報交換と交流を図ることを目的として3月2日、中野区で「赤十字ボランティアフェスティバル」を開催し、400人以上の赤十字ボランティアが集いました。

活動発表では、荒川区立南千住第二中学校レスキュー部の地域における防災活動をはじめ、バラエティに富んだ活動実例が紹介

されました。地域包括ケアに貢献しようと取り組みを進めている地域赤十字奉仕団などを対象にした健康生活支援講習も紹介され、健康寿命をのばすためのエクササイズを参加者全員で行うなど、盛り上がる場面もありました。



参加者全員でエクササイズ

NPO法人日本ファーストエイドソサエティ代表の岡野谷純さんが「災害時における避難所環境と赤十字奉仕団に期待されること」をテーマに講演。参加者からは「どの発表も素晴らしく他団の活動報告を聞くことができて良かったです」と感想がありました。

活動発表

- レスキュー部の活動について
(荒川区立南千住第二中学校)
- クリーンキャンペーンについて
(中野区赤十字奉仕団)
- 私たちの今とこれから
(青年学生赤十字奉仕団)
- 健康生活支援講習について
(東京都支部救護課講習担当)
- ららぽーと立川立飛について
(立川赤十字奉仕団)

ラジオで赤十字をPR！
FM西東京の番組に出演

防災教育の取り組みを紹介

東京都支部の職員が昨年12月19日、FM西東京のラジオ番組「まちともプラス レスキュー通信」に出演しました。放送範囲は多摩6都のエリア。赤十字の防災・減災の取り組みなどについてお話ししました。出演した職員は、「赤十字人生、初のラジオ出演。しかも生放送で緊張しましたが、制作室の皆さんやパーソナリティーの方が緊張を和らげてくださり、災害に対する備えの大切さについて話すことができました」と語っています。

厳冬期の災害を想定 合同の先遣要員宿泊訓練を実施

日本赤十字社第2ブロック支部（関東甲越の9都県支部、東京都支部を含む）は1月30日～ 2月1日、合同で先遣要員宿泊訓練を行いました。災害発生時の初動で被災地派遣される先遣要員の災害対応能力の向上、第2ブロックとの連携の確認が目的で、関東甲越の赤十字施設から15人が参加しました。

1月30日、栃木県大田原市で震度7の地震が発生したとの想定で行われ、本部となる活



夜には昼の訓練の振り返りを行う



チームに分かれて訓練を実施

動場所の確保、大型テントの設営、通信の確立等に加え、実際に大田原市役所をアセスメント（被害状況の聞き取りやニーズ調査等）するという実践的な訓練を行いました。

今回は天気恵まれましたが、どんな環境下でも医療救護班がふだん通りの活動をするためには、先遣要員の初動対応が重要となります。日赤はこれからも、さまざまな状況を想定した訓練を行っています。

平成31年度事業計画を承認
東京都支部評議員会

平成30年度第2回日本赤十字社東京都支部評議員会が2月12日、東京都支部で開催されました。多羅尾光睦副支部長（東京都副知事）をはじめ、評議員、監査委員など総勢42人が出席し、平成31年度事業計画及び歳入歳出予算について審議が行われ、原案のとおり承認されました。

評議員会は、評議員や本社代議員の選出、事業計画・予算・決算などについて審議。年2回開催されます。



多羅尾副支部長の議事進行で審議が行われた

赤十字防災スクールを開催
子どもフェスタ2019

災害時に役立つ技術を楽しく学びました

東京都支部は3月2日、新宿未来創造財団主催の「子どもフェスタ2019」に参加しました。未来を担う子どもたちの大きな夢にむかってチャレンジする意欲とそれを成し遂げる実行力を育てることを目的に、さまざまな体験プログラムが行われました。東京都支部は、災害時に大切な人たちと助け合い、乗り越える気持ちを育むプログラムとして「赤十字防災スクール」を実施。災害に備えることの大切さを感じてもらいました。

支部が停電!?
災害対策本部運営訓練

都内で大規模災害が発生した際に効率的に活動できるよう、東京都支部は2月22日、災害対策本部運営訓練を実施しました。朝8時に大地震が発生した想定で、職員は徒歩で参集。非常用電源から電源を確保することから始まり、医療救護班や救援物資の調整など、緊張感をもって訓練に臨みました。参加者からは「事前に決めておかなければならないことが、まだまだあると感じた。今後に生かしたい」などの声が出されました。



災害医療コーディネーターを交えて医療救護班の調整を行う

4月から大幅改訂！救急法と水上安全法講習



止血帯（ターニケット®）

傷や急病などの応急手当を学ぶ救急法講習と水の事故防止を学ぶ水上安全法講習が4月、大幅改訂されました。

救急法講習では新たな止血法をプログラムに取り入れました。テロなどによる爆発物や銃乱射によるケガでは大量出血も予想されることから、専用の止血帯（ターニケット®）を用いた止血法が効果的と言われています。日本でもこれからはテロ災害などを想定して

おく必要があり、救急現場における適切な止血処置は重要な課題となっています。止血帯止血法は出血死からいのちを守る新たな方法のひとつです。

水上安全法では、気象庁やNPO法人日本ライフセービング協会などの協力を得て、海や川を始めとした自然水域における事故防止の知識内容など、さらに充実させました。

あなたも、新しくなった講習を受講して、より現状に即した知識・技術を身につけませんか？



新しくなった教本

今年も地元マラソン大会で
救護ランナー出動！

ランナーの皆さんとともに

東京都支部は1月27日、第17回新宿シティハーフマラソン・区民健康マラソンに救護ランナーとして参加、AEDや応急手当キットを携行して市民ランナーとともに新宿の街を走りました。赤十字ボランティアと国士舘大学の救急救命士・学生ボランティア、日赤職員が3～4人1組で5区間を順番に走りました。今年はAEDを3kgから1kgに軽量化するなど資機材も強化。当日は大きなケガや事故もなく、ランナーの安心・安全に貢献できました。

特集

私たちは、忘れない。

— 災害から学び、備える —

私たちは、忘れない。

今もなお、苦しんでいる人々に思いを寄せることを。

私たちは、考える。

過去の災害の経験を語り続ける人々から教わった学びを
自分たちの備えとするために。

私たちは、続ける。

自分や大切な人たちの笑顔を守るために。

被災した方々の話を通じて

災害に備えるには物だけではなく気持ちも必要であることや、

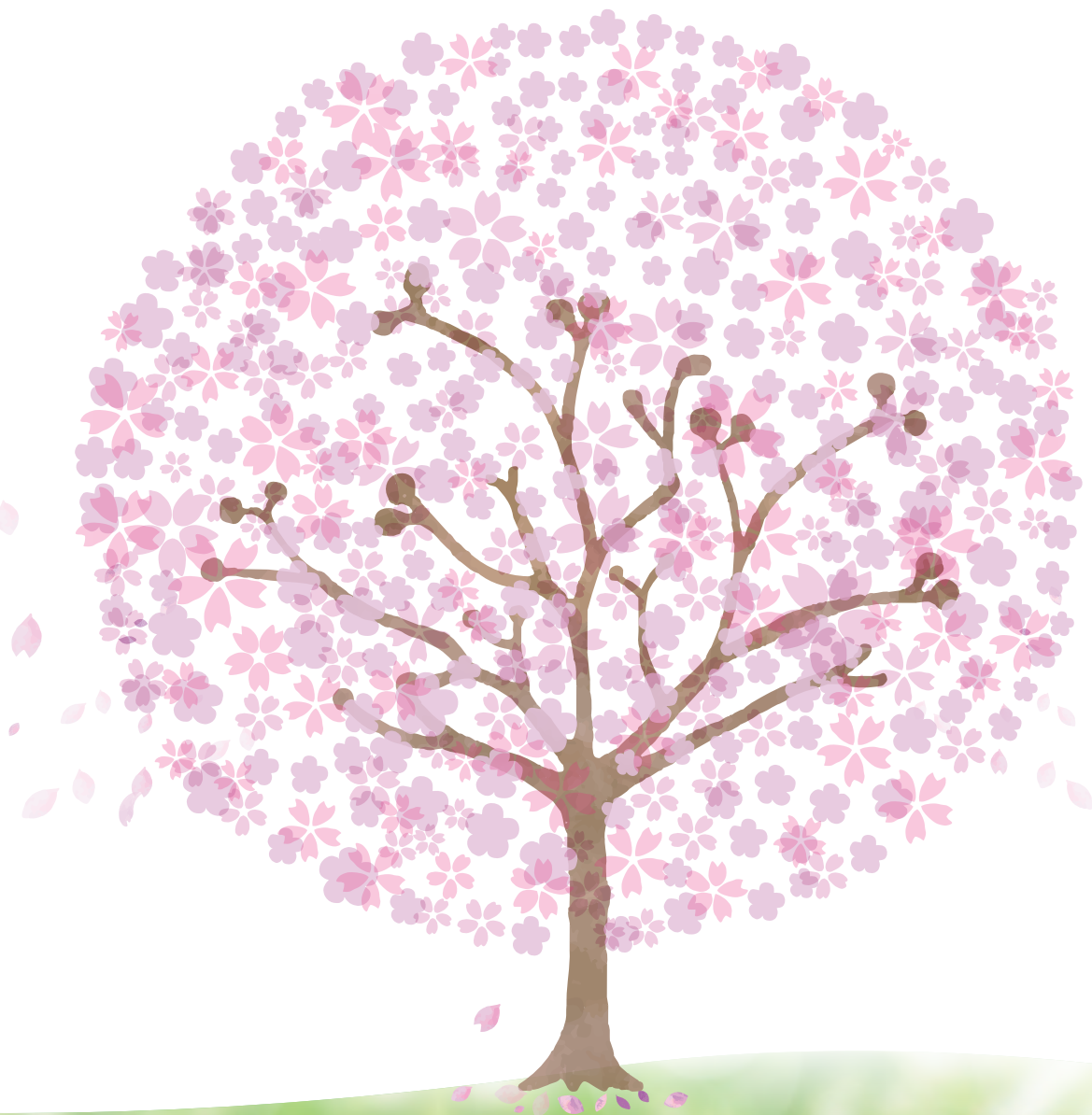
災害に立ち向かうには、一人ではなく

みんなで支え合うことが重要であることをみなさんに伝えたい。

また、赤十字がなぜ日ごろの備えの重要性を呼びかけているのか、
その思いを伝えたい。

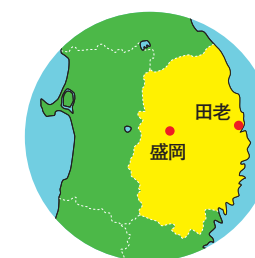
今回の特集が、

みなさんの災害対応力の向上につながることを願って。



防潮堤は築いた。 でも、それだけでは だめだった。

岩手県宮古市・田老地区での津波の教訓



「この町は終わった」
と思った

「私はその時、高台に避難していた。ドーンという大砲のような音がして振り返ると、海が10mくらい、ものすごい勢いで盛り上がり、防潮堤を乗り越えて一気にダーッと町に流れ込んでいった。わずか4分間の出来事だった。16mの高さの、たった一度のその波で、『この町は終わったな』と思ったよ」

宮古観光文化交流協会が主催する「学ぶ防災」ツアーのガイドとして、津波の体験を語り続けている小幡実さん。民宿を経営していましたが、津波ですべて流されま

した。「アルバムや思い出の品も全部流された。建物の土台しか残っていなかった」と話します。

防潮堤に囲まれた町

田老地区は昔から大きな津波被害をくり返し受けてきました。明治29（1896）年の津波（15m）では町民の約8割が亡くなり、昭和8（1933）年の津波（10m）では約3割の死者・行方不明者を出しました。

高台への移転が難しかったことから、昭和の大津波の後、当時の村長（当時は田老村）は防潮堤建設による復興を決断。そのために東京から著名な技師も招きました。

岩手県宮古市田老地区（旧田老町）は、「津波太郎（田老）」と呼ばれるほど古くから津波被害を受けてきた町です。そのため、町には高さ10mの巨大な防潮堤が築かれ、「万里の長城」とも言われていました。
しかし、2011年3月11日に発生した東日本大震災による津波で、田老地区はまたも大きな被害を受けました。



現在と被災前（白線囲み）の田老。町の中心部が津波でほぼ壊滅してしまった。現在は新たな防潮堤も建設中（提供：宮古観光文化交流協会）

1 自らの津波の体験を語り継ぐ小幡さん／2,3 津波遺構として保存されているたろう観光ホテル。東日本大震災による津波で6階の建物の4階まで浸水し、1・2階は完全に破壊された。「学ぶ防災」ツアーで見学可能。ホテル6階から津波が襲来するようすを撮影した映像も上映される／4 港の端に立つ製氷貯水施設。過去の津波の高さを記録している。一番上の印が東日本大震災の津波／5 昭和8年の津波後、田老第一小学校裏に建てられた大海嘯記念の石碑。「地震があつたら此処へ来て1時間我慢せ」「津波に襲れたら何処でも此の位高所へ逃げろ」などの教訓が書かれている／6 田老の漁協から撮影／7 津波直後の田老観光センター（6,7は提供：宮古観光文化交流協会）／8 津波で崩れた第2防潮堤／9 新たに築かれる高さ14.7mの防潮堤／10 小幡さんの民宿がかつてあった場所／11 かつての中心地。現在は居住禁止地域であるため野球場になっている



宮古観光文化交流協会「学ぶ防災」ツアー

東日本大震災による津波被害の状況を学び、防災意識を高めることがねらいです。防潮堤や津波遺構「たろう観光ホテル」の見学、マスコミ未公開の津波映像の上映も。主に1時間コースと2時間コースがあります。

期 間：通年（年末年始休み）
受人数：1～200名
時 間：30分～60分（120分コースもあり）
予 約：要予約
体験料：ガイド1名派遣につき4,000円（1～40名の場合）
120分コースの場合10,000円
申込先：たろう潮里ステーション内 学ぶ防災
電 話：0193-77-3305

宮古観光文化交流協会 <http://www.kankou385.jp/>



防潮堤の功罪と 田老の町の未来

津波に飲まれた人の遺体は損傷が激しいことも多いそうです。寝たきりの母親と共に亡くなった息子、孫を抱いたままの姿で発見された女性：。「まさか、大丈夫だろう」と過信せず、逃げていれば助かったいのちがどれだけあったことか。

「もし防潮堤をつくっていなかったら、いくら津波に慣れた田老の人たちでも全員逃げたと思

臆病だから助かった

昭和8年の大津波の後に建てられた石碑（大海嘯記念）には、「地震があつたら此処へ来て1時間我慢せ」の一文があります。東日本大震災でも、地震発生から津波襲来までは40分ほどの時間があつたそうです。

昭和8年の大津波の後に建てられた石碑（大海嘯記念）には、「地震があつたら此処へ来て1時間我慢せ」の一文があります。東日本大震災でも、地震発生から津波襲来までは40分ほどの時間があつたそうです。

津波とともに 「防災のまち」として

「いったん逃げた人も時間があるから『先祖の位牌だけでも持つて来よう』と自宅に戻った。すぐに戻って来た人は助かったけれど、『ついでに通帳や印鑑も』などと言ってすぐに戻らなかった人たちは津波に飲まれてしまった」と小幡さん。被災当日、町の防災スピーカーからは「3mの津波が来ます」と流れたきり。停電でテレビもつきません。ラジオでは「10mの津波が来る」と報じていたそうですが、ふだんラジオを使っていない人たちも多かったようです。

2～3mの津波なら慣れているし、高さ10mの防潮堤が守ってくれている。そう考えて避難しなかった人もいたそうです。小学校や役場、寺がある裏山や、その他の高台に逃げた人は助かりましたが、一瞬の判断ミスが生死を分けることになりました。「私は怖くて逃げた。だから助かった。いのちを守りたければ臆病であるべきだ」と小幡さんは話します。

う。でも、防潮堤がなかったら、大勢の人が避難した高台にまで津波が駆け上がったかもしれない。そうなっていたら田老の町は本当に終わっていただろう」と、小幡さんは複雑な思いを語ります。

田老地区ではまもなく、高さ14・7mの新しい防潮堤が完成します。「皆が高台に移転できるのが理想だろうが、田老では防潮堤とともに、防災のまちのモデルとして今後もやっていく。私も、求められる限りは津波の体験を語っていききたい」。小幡さんは最後にこう話してくれました。





1 廃車になった父親の車と片付け中の廃棄物／2 葛西さんの実家の被害状況。水位は1mを超えた／3 カビが生えた壁。浸水の度合いに関わらず、一度水を吸うと内部にカビが発生する／4 家族総出で片付け。浸水後はゴミの臭いと土埃に悩まされたという／5 1階納戸に入っていたため、水に浸かってしまったアルバム



ているため、番地を伝えても場所が分からないと言われました。それに、救助の順番も病気の方などが優先されます。公助に頼りたくても限界があると感じました。

ご近所や友人、親類に助けられながら

実家の両親は2人暮らし。父親は自宅から動こうとしなかった。うです。そのためなかなか救助隊が発見されませんでした。救助された近所の人が救助隊に知らせてくれて、発災から2日後、ようやく救助に至りました。両親を捜索している時にも地元の友人たちが車を出してくれたり必要な情報を教えてくれて、それが大きな力になりました。葛西さんは、「最も頼れたのは友人や近所そして親類だった」と実感したそうです。

自衛隊や赤十字、全国からのボランティアの活動にも励まされましたが、浸水後の片付けが一段落した後も「助け合い」の力を感じた、と葛西さん。

「1階が水浸しになってしまった実家を手放すかどうかという話になったのですが、両親はやはり

手放したくないと言う。結局、義援金や保険金などを活用して補修することになり、両親はおかげさまでいまま実家で暮らしています。その時は義援金のありがたさが身にしみました。金額以前に、気持ちをいただいていると感じました。それから募金への意識も変わりましたね」

トイレに困ると食べられなくなる！

警察署で一泊していた時、一番困ったのはトイレでした。「携帯トイレは持っていました。すぐに一杯に。気軽に排泄できないとなると、食べられなくなりました」。この経験があつてから、携

帯トイレは3回分ほど持ち歩くようになったそうです。

「実際に両親が被災するまで、災害はどこか他人事でしたが、自分の身にふりかかると、こんなにもつらいものだと思います」とも。それでも、「携帯トイレなどの物理的な備えや心構え、地域とのつながりを含めた情報面での備えがあれば、被災後のストレスはかなり軽減されると思います」と指摘します。

自身の経験からも、地域でのネットワークづくりや防災への取り組みが重要だと痛感した葛西さん。「地域のイベントなどをきっかけにして、自治会や町内会に参加し、住民同士がふだんから顔見知りになっておくことが重要です」。



備えと心構え、助け合いの大切さ。

平成27年台風第18号等大雨災害で両親が被災した経験から

平成27(2015)年9月に北関東と東北を襲った大雨災害。葛西なおみさん(東京都江東区)は、茨城県常総市の実家が浸水被害にあいました。被災した両親と一晩連絡がつかず大変な思いをしましたが、その経験から「備え」と「心構え」、そして助け合いの大切さを実感したといいます。

常総警察署3階から撮影された9月11日の水海道地区

今回、お話を伺ったのは
葛西 なおみさん



Naomi Kasai

東京都江東区在住。実家が被災して、住民のネットワークの重要性を痛感。現在は、自身が暮らすマンションや町内会で防災活動について模索している

警察や消防の力にも限界がある

大雨により鬼怒川の堤防が決壊したのが9月10日午後。夜7時過ぎから常総市の実家で浸水が始まりました。「1m超えの浸水で、母親は2階に上がりましたが、まだ父親が1階にいる、という状況で電話が不通になりました。それから一晩、連絡が取れなくなり、とても不安でした」と葛西さんは当時を振り返ります。

翌朝、常総市に向かいましたが、浸水が進んでいたため実家から10kmほど離れた常総警察署で足止めに。結局、避難者などと一緒に警察署に一泊することになりました。「警察や消防の皆さんがボートで夜通し救出作業をされていて、ありがたくて涙が出ました」。

警察や消防に何度も救助要請をしましたが、「街が水没してしまっ



まだ水のひかない道を進む

——防災・減災セミナーでは、生き延びるための技術や知識を学ぶのですか？
齊藤 応急手当でのやり方なども含まれていますが、赤十字の防災・減災セミナーのねらいは、地域の防災力向上をめざして地域のリーダーを育成することです。リーダーがいる地域は防災力が高いのです。そのため、セミナーは地域の人たちが自分の地域について話し合いながら防災について考えていく内容になっています。

齊藤 赤十字の使命は、人のいのちを救い、尊厳を守ることにあります。そのためには医療救護だけでなく、避難所の環境改善も必要です。せっかく地震や津波から生き延びても、災害関連死でいのちを失うのはあまりにもつたいない。赤十字には健康生活支援講習などの知見やスキルがありますから、それらを活用して避難所にいる皆さんのリラクゼーションにつなげたり、こころのケアなど気持ちを支えたりといった支援も行っています。こうした活動は赤十字の健康生活支援講習を受講することを通じて可能となりますから、ボランティアの皆さんにも参加してもらえます。

災害のたびに反省がある
——この間の災害救護の経験から得た教訓などありますか？
齊藤 私たち赤十字は救護活動を始めて約100年の歴史を持ちますが、それでもまだまだです。災害のたびに反省があり、それを改善していくと模索しているところです。たとえば、東日本大震災は3月でしたが、寒い中で役立つ装備があれば良かったとか、もっと早く救護体制を整えられなかったのかなど、反省点はいくつもあります。
住民の方々自身の備えも必要ですが、私たち救護する側も、より良い救護活動ができるよう事前の備えに力を入れていかなければなりません。それが、皆さんからいただいた活動資金を有効に活用することにもつながると思います。
この目立つ救護服を着て被災地に入ると、皆さんからの「日赤さんが来てくれた」という安心感や期待感をひしひしと感じます。プレッシャーも感じますが、その期待に応えられるような活動を今後もしていきたいと考えています。

防災教育事業のご案内

過去の災害のようすや首都直下地震の被害想定 の解説など、災害時の考え方を学ぶ講義や大規模災害に役立つ応急手当、身のまわりのものを活用した避難所で役立つ技術も体験できます。

講演：(40～60分) 首都直下地震の被害想定から、災害時の被害について理解し、自助・共助の重要性と事前の備えの大切さを理解します
実技：(60～120分) 身のまわりにあるものを活用した応急手当など
時間：2～3時間程度

お住まいの町内会や自治会、団体などの災害対策をサポートするセミナーです。各種コースを取り揃えています。詳しくは日本赤十字社東京都支部ホームページまで。



避難所生活でリラクゼーションはエコノミークラス症候群の予防になる



日赤東京都支部 齊藤紀彦救護課長に聞く

外からの支援には 限界がある

——赤十字と言えば災害救護と思いがちですが、防災・減災セミナーを開催しているのはなぜでしょうか？

齊藤 災害があれば私たちは全力で救護・支援しますが、外部からの支援には限界があります。東日本大震災の時、私は発災当日の夕方に石巻市への派遣を命じられました。一刻も早く被災地入りしたかったのですが、都内も大渋滞していて移動が大変でした。緊急車両として優先的に通行させてもらっても、到着したのは翌日のお昼近く。それまでの間、被災した皆さんには自分たちの力で生き延びてもらわないといけません。

災害が発生した際、自分自身のいのちを守るようにと、日本赤十字社東京都支部では防災や減災をテーマにしたセミナーを開いています。赤十字がどんな思いで防災・減災セミナーを開催しているのか。また、これまでの災害救護から得た教訓は何か。齊藤紀彦救護課長に話を聞きました。(聞き手 N T 編集部)



JRC OMORI HOSPITAL

大森赤十字病院

■所在地 〒143-8527 東京都大田区中央4-30-1
■連絡先 Tel 03-3775-3111 (代表)
■休診日 土曜、日曜、祝日、年末年始(急患は随時)
■病床数 344床(一般326床、ICU・CCU 6床、HCU 12床)

検査部長兼
循環器内科副部長
神原 かおり
Kaori Kanbara



皆さんは、脈が抜けているのに気づいたことはありませんか？ あるいは、突然胸がドキドキ苦しくなったことは？ 急に目の前が真っ暗になって気を失ったことはありませんか？

進化を続ける不整脈の治療

新型の小型診断・治療機器が続々登場！

動悸やめまいがして受診しても、検査で異常がないと言われた方も多いでしょう。通常の心電図検査は長くて1分、携帯型のホルター心電図を装着しても24時間程度。その時に症状が出ないと診断がつかないのです。しかしここ数年で、不整脈の診断・治療機器は精密で小型化されたものが続々と発表されており、当院でも新型の機器を積極的に活用しています。

ループ式植込み型 心電計（ICM）

電池がもつ限り（最長3年）、不整脈をモニタリングし続ける器械です。マッチ棒3本を束ねたほどの大きさで、胸の皮膚の下に植え込みます。不整脈や症状を自覚した時の心電図を記録し、当院に伝送して診断・治療につなげます。小型のため、入れた後も除去した後もほとんど目立ちません。

リードレス ペースメーカー

脈が止まったり遅くなるような

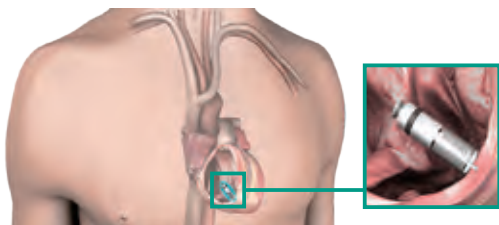
不整脈は、放置すると体に血液が十分に循環できなくなり、息切れやめまいがしたり、気を失うことも。この場合、ペースメーカーを植え込んで心臓に微小電流を送って心拍数を増やします。従来型は、胸の皮膚の下に植え込んだ器械（ペースメーカー）と、心臓につながる静脈の中を通して心臓内とペースメーカーをつなぐ電極（リード）で構成されていました。

新しく開発された「リードレスペースメーカー」は、1.75g、約1ccの小型のペースメーカー本体を心臓内部に設置し、心拍数を確保します。この治療の対象になる不整脈は多くありませんが、今までペースメーカー治療をする気になれなかった患者さんにとって、一つの朗報になるかもしれません。

日々進化している不整脈治療ですが、実は治療しなければならぬ不整脈はそれほど多くはありません。とはいえ、もし脈の乱れが気になる時は、ぜひお近くの循環器内科を受診してください。



循環器内科のスタッフたち



リードレスペースメーカー



JRC MUSASHINO HOSPITAL

武蔵野赤十字病院

■所在地 〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1
■連絡先 Tel 0422-32-3111 (代表)
■休診日 土曜、日曜、祝日、5月1日(赤十字創立記念日)、年末年始
■病床数 611床(一般528床、ICU 8床、HCU 22床、GICU 6床、SCU 9床、NICU 6床、GCU 12床、感染症 20床)

眼科部長
篠原 宏成
Kousei Shinohara

武蔵野赤十字病院の眼科は、医師・視能訓練士あわせて14人の体制で診療にあたっています。各々の医師が専門領域を持ち、専門性の高い疾患への治療にも対応しています。

高度な手術治療にも対応

頼れる病院をめざして、眼科

眼科は眼という単一の感覚器を扱う科ですが、カバーする領域は角膜、水晶体、緑内障、ぶどう膜炎、網膜硝子体、神経、斜視弱視など多岐にわたります。当科は地域中核病院として幅広い疾患に対応していますが、特に網膜硝子体手術、緑内障手術、白内障手術などに力を入れています。

網膜硝子体手術

網膜硝子体手術は網膜硝子体疾患に対して行う手術治療で、眼科領域の中では高度な治療分野の一つです。

対象となる疾患は裂孔性網膜剥離や増殖糖尿病網膜症、黄斑円孔など多岐にわたりますが、放置した場合、高度な視力低下の原因となることが多く、失明につながる可能性の高いものもあります。当院では硝子体手術機器（コンステレーション®）、広角眼底観察システム付顕微鏡（ルメラ700®）を導入しており、小切開での硝子体手術を幅広い疾患に対して施行しています。

緑内障と白内障

緑内障は進行すると高度な視野欠損を引き起こし、失明することもあります。一度欠損した視野は元に戻せないため、進行を抑えることが重要です。進行予防には眼圧を下げるのが最も有効とされ、薬物療法では十分に眼圧が下がらないケースでは手術が必要になります。当院では濾過手術を中心にさまざまなタイプの緑内障の手術を行っています。

白内障の治療では、当院は超音波白内障手術を日本で先駆けて行ってきた歴史があり、現在でも白内障手術を積極的にに行っています。傷口は2.4mmと小切開の手術です。

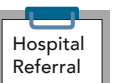
いずれも地域の医療機関と連携して診療を行っています。当院で治療後、状態が落ち着いたら段階で安心して紹介元にお戻りいただけるよう心がけています。スタッフ一同、地域の医療機関から安心して紹介していただける眼科をめざしています。



眼科のスタッフたち



手術のようす





低出生体重児との「同窓会」 年に一度の「Smileの会」

葛飾赤十字産院

- 所在地 〒124-0012 東京都葛飾区立石5-11-12
- 連絡先 Tel 03-3693-5211 (代表)
- 休診日 日曜、祝日、年末年始
- 病床数 113床(産婦人科68床、NICU・GCU等45床)

葛飾赤十字産院には新生児集中治療室(NICU)があり、出生体重1500g未満などの赤ちゃんとそのご家族を対象にした同窓会「Smileの会」を毎年開催しています。

当院の新生児集中治療室(NICU)には年間およそ500人の赤ちゃんが入院しています。このうち、32週未満で産まれ、かつ出生体重1500g未満の赤ちゃんとその家族がSmileの会の対象です。第16回目のSmileの会は昨年10月13日に開催されました。NICUスタッフを中心に運営され、今回は36組のご家族が参加されました。

多くの赤ちゃんは、NICUで2か月以上の入院生活を送りました。入院中に多くの時間を共有したスタッフが赤ちゃんとそのご家族に再会できるSmileの会はNICU最大の行事であり、今後の診療への活力源となっています。

病院のスタッフに感謝

Smileの会に参加した「卒業生」の話を一部紹介します。

「産声を聞いたときは、ああ息子は生きているんだと初めてリアルティーがわき、無事生まれたことに感激しつつも、早く産まなければいけなかったことに涙が

止まりませんでした。息子に対面した時は、いろいろなチューブが体に取り付けられ、体の小ささと、触ると壊れてしまいそうで、この子はこの箱の中にいないとまだ生きていけないんだと思うと不安や申し訳なさに涙があふれました。入院は2〜3か月と言われ、先が見えず不安もありましたが、少しずつ息子と接する機会が増え、体重も増え、チューブやモニタが外れ装備が軽くなっているのがうれしく、面会が楽しくなりました。早く大きくなるようにとカンガルーケアをしながら頭をなでて念を送りました。退院時は2420gでした。退院後は育児に慣れるので精一杯で、あつという間に現在に至ります。当時のスタッフの方々には、授乳や沐浴、育児についての話を詳しく聞くことができ、病院でのこういったコミュニケーションは入院面会生活で非常に助けられました」(妊娠高血圧症候群のため30週1日に緊急帝王切開により1272gで出生したNくんのお母さん)



みんなで「てあそび」(いずれもSmileの会にて)



アロマオイルを使ったハンドマッサージ



職員は見た！～とある撮影の裏側～



2 019年2月8日午前10時。都内某所にてとある撮影が行われました。出演者2人、スタッフは総勢15人ほど。撮影は5時間にも及びました。

実はこれ、東京都赤十字血液センター監修の動画撮影の模様なんです。

動画制作が始まったのは、2018年12月。「献血を身近に感じてもらう」をテーマに、どんな映像にしたらいいか何度も打ち合わせを重ね、イメージをすり合わせていきます。そして、できあがった絵コンテ(写真1)。その後も、台詞1つ1つなど、細部にわたってしっかりとチェックして



写真1 絵コンテ(イメージ)

いきます。何度も何度も内容を協議し、ようやくこの日を迎えました。

プロ意識を目の当たりに

撮影は、場面ごとにコマ切れで行われていきます。しかも、同じ場面をいろいろな角度から。その模様をモニター越しに見守ります。「雑音を出してはいけない」と、撮影を見ているこちらにも緊張感が走ります。

そして撮影が終了するごとに、撮ったばかりの映像を再生しチェックしていきます(写真2)。その場にいるスタッフ全員の目は真剣そのもの。

先生役のキョートな女性



写真2 モニターで映像をチェックします

と、学生役のイケメンなお2人。台詞が急に変更になっても、すぐさま対応。撮り直すたびに表情も変わり、さすがプロと感服しました。

気になるアイテムの数々

突然、「ブウオーン」と鳴り響く音が。その正体はドライヤーでした。「献血とは全く関係ないのに、なぜ？」と思ったのもつかの間、ドライヤーがいい仕事をしていました。ほかに「メガネ」といったアイテムも登場します。

この現場に集まった全員が、「いいものを創りたい」という想いで挑んでいるのを肌で感じました。



動画の注目ポイントはこちら

- Point 1** なぜ緑色の服を着ているのか
- Point 2** ドライヤーはどこで使われたのか(ヒント：電車の場面に注目)
- Point 3** アップで1日見ても見飽きない、出演者2人の笑顔

東京都赤十字血液センター
ホームページは [東京 献血](#) で検索ください。

果たしてどんな映像になったのか。短時間でご覧いただけるショートムービーです。東京都赤十字血液センターのホームページでも視聴できます。ぜひご覧ください！

住民の力で健康な地域づくり

フィリピン・セブ北部の地域保健衛生事業

WORLD
NEWS

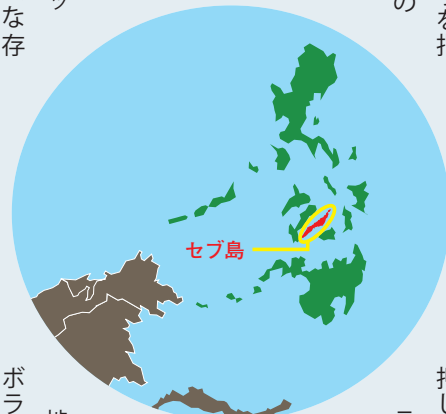
フィリピン赤十字社はセブ北部で、深刻な病気の予防などを地域住民で習得して、自分たちで予防したり立ち直る力をつける保健事業を展開しています。

優しい心づかいで
ボランティアを励ます

地域保健衛生事業は地域ボランティアの存在が要ですが、そのボランティアたちを指導し、支えているのがフィリピン赤十字社の11人の事業スタッフです。

アルさん
(29歳)は、フィリピン赤十字社本社と事業スタッフをつなぐ重要な存在。責任感は一倍で、目標を達成しているスタッフは大いに褒め、伸び悩んでいるスタッフには担当地域の大変さに共感を示しながら応援するなど、スタッフにとっては頼りになるリーダーです。

ロナさん(41歳)は離島を担当。教師だった経験を活かし、活動の先頭に立っています。離島に駐在しているの、その分きめ細かいフォ



2013年の台風ハイヤン被害をきっかけに日赤はこの事業を支援してきましたが、このほど区切りを迎え、今後はフィリピン赤十字社セブ支部に活動を引き継ぎます。日本の皆さまからいただいた支援による事業により、住民たちの健康と衛生習慣が引き続き維持されることを願っています。

ボランティアの定着率も高水準です。

ボランティアたちのモチベーションもアップするようです。実際、ロナさんの派遣地域は離島ばかりなのに、事業の進捗はいつもトップ。



笑顔が素敵なメンバーたち。左端がロナさん



フィリピン赤十字社のスタッフ、アルさん

赤十字国際ニュースのメールマガジンに登録しませんか？定期的にニュースがお手元に届きます。登録・閲覧はこちら↓



赤十字国際ニュース
(まぐまぐ)

武蔵野赤十字保育園

餅つきや獅子舞を体験 年末年始はお正月のお勉強



よいしょー！
でっかいお餅を
つくろう～

1年間健康に！
カブッ!!



園児たちは昨年末、新年から園で飾る鏡餅をつくりました。年長さんたちは頭にハチマキを巻き、気合十分。「よいしょー！」という園児たちの力強い声が園に響きます。年長さん全員がお餅をつき終わると、大きなお餅ができあがりました。はじめて餅つきを見る小さな園児たちは、さっきまでお米だったものがお餅に変わったことに驚いているようでした。みんなでつくった鏡餅は園の玄関に飾られ、元気に登園してくる子どもたちを迎えてくれました。

獅子舞がやってきた！

新年になり、子どもたちはホールでお正月について勉強していました。すると…獅子がやってきました！子どもたちはビックリ。しかし、獅子に頭を噛んでもらうと頭が良くなり、1年健康に過ごせるということを勉強しています。そのため、勇気を出して涙をぐっところえ、お友だちと一緒に獅子に頭を噛んでもらいました。一度噛まれてしまえばもう怖くありません。「噛んで！噛んで！」と獅子は大人気に。お正月という文化を、餅つきや獅子舞などを体験しながらしっかりと勉強することができ、子どもたちは今年も1年間元気に過ごせそうです。

赤十字子供の家

わーい！ ゆきだぁ！！ 年に1度の雪遊び旅行

WELFARE
FACILITY
NEWS

赤十字子供の家では毎年、幼稚園児を対象に雪遊びのための1泊旅行を実施しています。いつもは生活する部屋が別の子どもたちが一緒に遊ぶ行事は、また違う楽しみがあります。

今年は2月に水上へ

今年は2月3～4日、子ども19人、職員10人の一行で群馬県・水上に向けて出発。スキー場に向けて徐々に雪景色に変わる風景を見て驚きや喜びの声をあげながら、車内は大盛り上がりです。興奮状態で到着すると、早速、ソリを片手に雪山を登ります。初めから満面の笑みで滑る子、怖々職員と一緒に挑戦する子、お友だちを誘導することに徹する子、雪だるま作りに奮闘する子、とにかく雪の中に埋もれていく子…。本当に個性はさまざまです。

こうした行事が実施できるようにと寄付して下さる方々、障子に穴を開けてしまっても笑って許してくれる優しい宿の方々、控室として部屋を提供してくれるスキー場、にぎやかな子どもたちに嫌な顔ひとつせずに受け入れてくれるバスの運転手さん…。多くの方々のご厚意があって、この行事は成り立っています。今年もその想いを無駄にしないほどの、子どもたちの笑顔や歓喜の声あふれる雪遊びになりました。

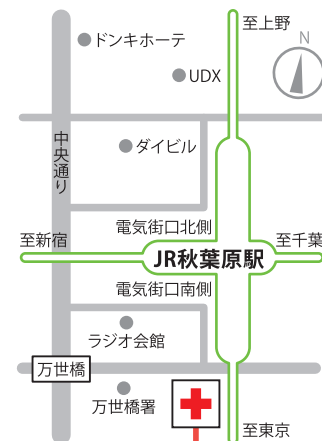
ほら見て！
登れるよ！



楽しい
ソリ遊び



OLレポーターオカモト★日赤とつげきレポ 紹介献血ルーム



**akiba:F
献血ルーム**

🕒 受付時間

▶ 成分献血

9:30～16:30

※受付状況により、成分献血の受付を早めに終了させて頂くことがあります。

▶ 400・200mL

9:30～18:00

☎ 電話

03-3251-8201

📅 定休日

12月31日・1月1日

📍 場所

〒101-0021

東京都千代田区外神田1-16-9 朝風二号館ビル5階
(JR秋葉原駅 電気街口 徒歩1分)

NT Vol.21
NISSEKI TOKYO 2019年4月発行

■発行・編集・デザイン／日本赤十字社東京都支部

〒169-8540 新宿区大久保1-2-15 Tel:03-5273-6747 (総務部企画課直通)

※本誌掲載の記事・写真・イラストなどの無断転写(コピー)、複製(転載)を禁じます。

※本誌に掲載されている情報は、発行に伴う情報収集時点での情報を含みます。その後の内容に変更が生じる場合もありますので予めご了承ください。

ホームページ: <http://www.tokyo.jrc.or.jp/>

Facebook: <https://www.facebook.com/redcrosstokyo/>

年4回発行(4月・7月・10月・1月)

日本赤十字社東京都支部にご寄付いただいた方に郵送でお届けしているほか、都内の赤十字病院及び献血ルーム・献血バス等の献血会場でも配布しています。

バックナンバーは
ホームページでも
ご覧いただけます。

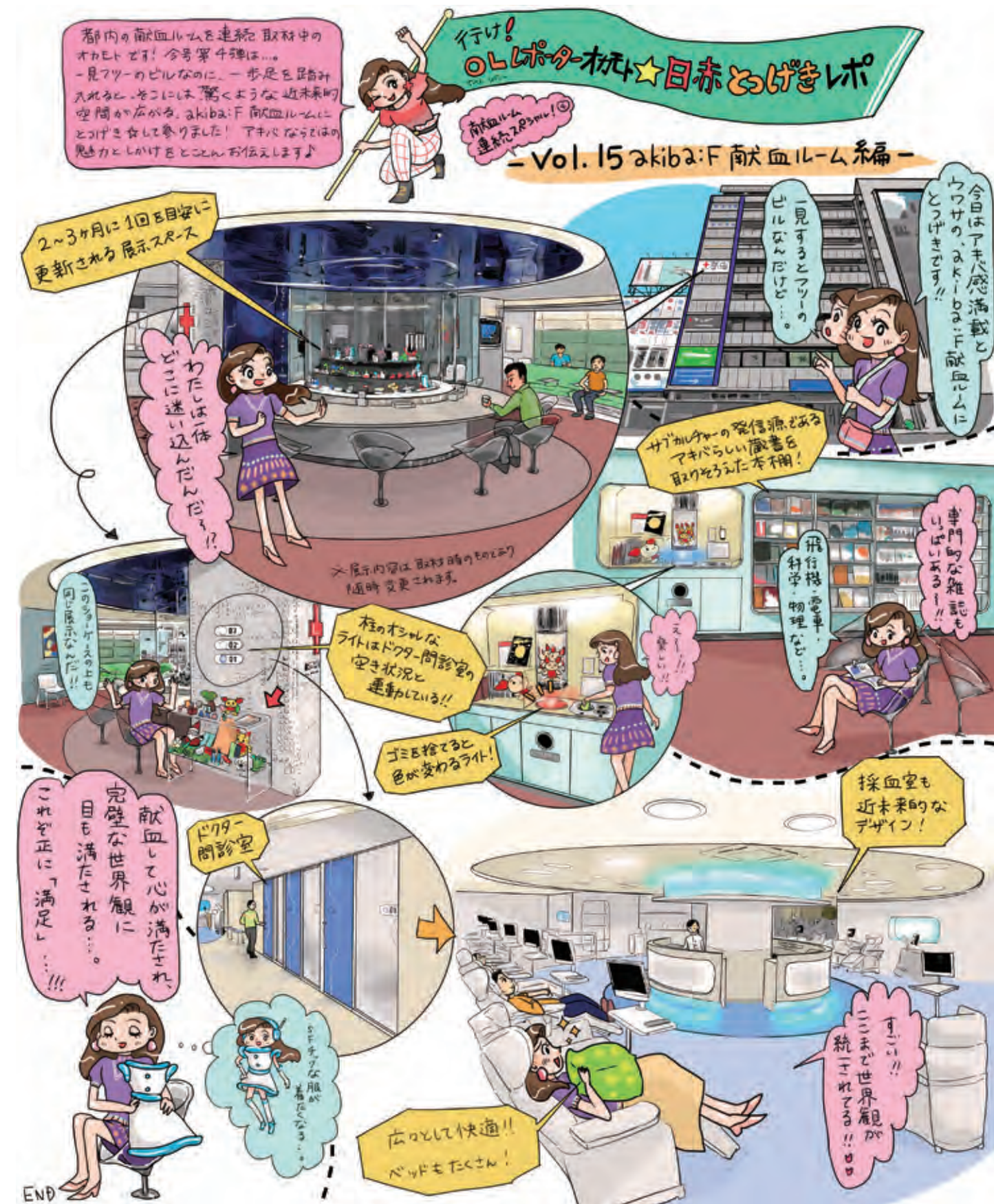


設置(配布)協力者を募集します!

日赤東京都支部広報誌『NT』を会社や店舗などに設置、またはご友人など周りの方に配布していただける方を募集しています。

詳しくは

☎ 03-5273-6747まで
(総務部企画課直通)



赤十字 Supporters

社会から必要とされる 存在でありたい

元谷拓さん（アパホテル株式会社代表取締役専務、日赤特別社員※）

ホ

テル業は社会貢献度が
高い業種です。なぜなら
ば、ホテルを建てる、建築の
ために働く人々の雇用を生み、
工事の作業員たちが利用するコ
ンビニや商店街も潤います。ま
た、ホテルが完成すれば、毎日
何百人というお客さまが駅や地
元の商店を利用して、地域が活
性化します。ホテルそのものが、
地域にとって大切な役割を担っ
ています。

アパホテルでは、赤十字の事
業に対しても積極的に貢献した
いと考えています。これまでも
献血に協力してきましたが、事
業規模が拡大するなかで日赤の
活動を知り、協力する場を増や
してきました。

現在は日本全国498のホテル
のフロントに赤十字の募金箱
を置いています。2年前からは
年に1度、チャリティーイベン
トも開催しています。当ホテル

※特別社員…一時に2万円以上の活動資金へのご協力をいただいた
個人、または毎年2千円以上の活動資金へのご協力をいただき、
その累計が2万円以上に達した個人に贈呈される表彰



全ホテルのフロントに設置されてい
る赤十字の募金箱



「社会に貢献できる企業でありたい」と話す
元谷専務

の社長（元谷美美子社長）の帽
子や、アパならではの逸品等を
集めてオークションを行い、そ
の売り上げを全額、日本赤十字
社に寄付しています。

さらに、西日本豪雨の時は
1億円の義援金を日赤に寄付
し、それに加え、アパ社長カレ
ー1万食を被災地に届けました。
こうした社会貢献活動を行うこ
とで心が綺麗に、豊かになれる
ような気がしています。

そしてアパホテルでは、お客
さまの安心・安全・安眠を守る
ために、約2000人の従業員
員・アルバイトが救命講習を受
けています。私自身も上級救命
技能認定証（公益財団法人東京
救急防災協会主催）を取得しま
した。実際に、ホテルのフロ
ントで倒れたお客さまに、従業員
が救急隊の到着まで心肺蘇生を
行い、いのちを救ったこともあ
ります。

大切なことは利益を上げるこ
とではなく、社会から必要とさ
れること。そして、社会貢献を
通して、ひいては日本という国
をしっかり守っていきたい。そ
のために日赤とも手を携えてい
きたいと考えています。

活動資金協力者(社)・団体のご紹介

皆様のご協力により日本赤十字社の活動は支えられています。
活動資金のご協力、誠にありがとうございました。

※10万円以上のご寄付をいただき、掲載をご了承いただいた個人、法人および団体等を掲載しています。

活動資金協力に関するお問合せは
東京都支部 振興課 03-5273-6743まで

●千代田区		中島 令一	10万円	●足立区	
(株)朝日写真ニュース社	30万円	山崎 達彦	10万円	柳川 幸一	50万円
(株)トキワ	22万2,000円	三栄製薬(株)	300万円	梶 千草	12万円
デキュリオン(株)	25万円	(株)ハラジマ	10万円	佐々木 継男	10万円
(株)ケアネット	12万7,426円	●渋谷区		(有)柳川運送	80万円
(株)日本翻訳センター	10万円	桃	15万1,115円	●葛飾区	
(株)ノタック	10万円	小林 沙羅	10万円	(株)稲葉製作所	100万円
大妻中学高等学校生徒会	12万9円	(株)ライフプラザNEO	20万円	●江戸川区	
●中央区		(株)お世話や	10万円	須賀 裕一	510万円
小泉 久夫	10万円	●中野区		(有)須賀商事	50万円
●港区		佐分利 リユ子	10万円	(株)タムラ	12万円
大迫 雄三	200万円	松井 玲子	10万円	日本ロール製造(株)	10万円
(株)インサイド・アウト	100万円	(株)TOPANGA	187万1,949円	●立川市	
(株)SLジャパン	50万円	●杉並区		中田 明秀	243万円
イーパートナーズ(株)	30万円	太田 光代	310万円	(宗)真如苑	1,000万円
(株)知識経営研究所	10万円	太田 光	210万円	●三鷹市	
(有)藤井クリーニング	10万円	井口 清	120万円	木村 得玄	100万円
(株)プライムオリジンズ	10万円	岡部 好延	10万円	佐藤 多満代	30万円
●新宿区		高橋 君子	10万円	柿澤 康子	10万円
亀井 大悟	40万円	(株)ランロウドオフィス	50万円	●昭島市	
(株)STAYERホールディングス	20万円	●豊島区		岩崎 五六	30万円
●墨田区		佐伯 弘子	10万円	●調布市	
小野田 静子	10万円	アムス・インターナショナル(株)	103万円	晃華学園麦の会	10万円
角谷 かつみ	10万円	首都開発(株)	10万円	●小平市	
●江東区		●北区		小林 守久	10万円
川島 秀正	10万円	市川 政雄	10万円	●日野市	
坂元 左	10万円	第一化学工業(株)	10万円	土方 フミ	10万円
●品川区		(有)山崎鉄工所	10万円	●東村山市	
海沼 実	11万円	●荒川区		(株)一休	10万円
(株)オーツカ光学	10万円	柴本 佳子	10万円	●国立市	
品川合同葬祭(株)	10万円	●板橋区		保科 寛之	10万円
●目黒区		若佐 和子(英彦)	15万円	●西東京市	
津村 重臣	10万円	長尾 トモ子	10万円	新井 節子	50万円
●大田区		宮川 美知子	10万円	吉岡 優二	10万円
秋葉 柳一郎	10万円	(株)つくし工房	10万円	新井商事(株)	10万円
太陽電業(株)	200万円	●練馬区		●あきる野市	
柴田不動産(株)	10万円	加藤 寿子	50万円	三浦 祐	10万円
●世田谷区		匿名	10万円	●千葉県	
藤森 博昭	150万円	(株)野島電工	10万円	匿名	20万円
井上 桂子	100万円	パイオニア工機(株)	10万円	●兵庫県	
佐橋 俊彦	100万円			田尻 邦夫	10万円

(敬称略・順不同)



Present



日本赤十字社東京都支部の協賛企業様からご提供いただいています。ご応募、お待ちしております！

A.



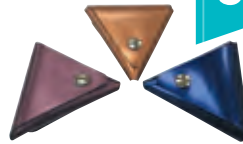
30個セット
3名様

アパ社長カレー

アパホテル株式会社

オリジナルスパイスとまろやかなソースを贅沢に使い、じっくり煮込んだ牛肉と野菜の自然な甘みを引き出した本格派ビーフカレーです。

B.



3名様

メタリックレザーコインケース

ダイアナ株式会社

牛革にメタリック塗装。日本製。3色のいずれか1つ。(色は選べません)

C.



35ml
10名様

TAEKOサンスクリーン

株式会社アーダブレン

SPF50+ PA++++。お肌と環境にやさしい日焼け止め美容液。アルカリゲネス産生多糖体のチカラで、お肌の潤いを護り下地にも最適です。ウォータープルーフなのに石けんで落とせます。紫外線吸収剤・揮発性油剤・界面活性剤など一切無添加。

▼ メールからのご応募限定 ▼

D.



500ml
24本入り
5名様

ミツ矢100%アップル

アサヒ飲料株式会社

“まるで果実”な、ジュシーさ。アップル果汁を100%使用した、果実そのもののジュシーな味わいが口の中に広がる贅沢な炭酸飲料です。

E.



500ml
24本入り
3名様

麒麟 iMUSE レモンと乳酸菌

東京キリンビバレッジサービス株式会社

プラズマ乳酸菌を配合し、爽やかなレモンの果汁感にほんのり甘さを加えた、日常の水分補給におすすめの甘さ控えめな乳酸菌二アウォーター。プラズマ乳酸菌1000億個配合。低カロリー(100ml当たり17kcal)。果汁1%。

F.



500ml
24本入り
3名様

まarmorチカラのサブリ

東京キリンビバレッジサービス株式会社

プラズマ乳酸菌を配合したすっきり飲みやすい、喉の渴きも癒せる、さわやかなヨーグルトテイストで飲み飽きない味わいです。

プレゼント応募方法

①氏名 ②年齢 ③性別 ④郵便番号 ⑤住所 ⑥メールアドレス
⑦本誌入手場所 ⑧本誌でよかった記事(複数回答可。メールの方は、はがき記事一覧から番号でご回答ください) ⑨本誌の感想(100文字程度) ⑩希望するプレゼント番号を明記し、メールまたははがきでご応募ください。抽選でプレゼントが当たります！
締切は**2019年5月31日**必着。当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

メール

nissekitokyo@tokyo.jrc.or.jp

件名には「プレゼント応募」とご記入ください。

はがき

添付の専用はがきでご応募ください。

※いただいた個人情報はプレゼントの発送および当支部からの連絡のみに使用します。お寄せいただいたご意見・ご感想は個人が特定できないよう配慮したうえで当支部が行う広報に活用させていただきます。製造状況等によりプレゼントの内容が変わる場合もございます。

協賛品募集中! お問い合わせは ▶ **nissekitokyo@tokyo.jrc.or.jp**

読者の声 (vol.20)



献血時にもらい、初めて拝読しました。何十回と献血をしてきましたが、献血後の病院等までのルートが知らなかったので、血液センターで管理されているのを初めて知りました。必要な場所に必要量を届けるために工夫や苦労を知ることができて、定期的な献血をこれからも続けていこうと思うきっかけになりました。自分が献血したものがどのように生かされているか知ることができ、勉強になりました。

東京都・29歳・女性(献血ルーム新宿ギフト)

「赤十字はジミチです」とある通り、赤十字の名前は知られていますが、確かに活動が広すぎてわかりにくかったり、病院や災害の活動かと思ったりしていました。『NT』を読むと広い活動の中に身近に参加できるものもあり、幅広く活躍されていることを知りました。羽田空港の大型のチャリティーボックス、海外から羽田へ帰ることがあったら、ぜひ使いたい。知り合いにも伝えたいと思います。献血は何回かしましたが、その「ゆくえ」まで深く考えていませんでした。

東京都・56歳・女性(郵送)

バックナンバーはこちら ▶ <http://www.tokyo.jrc.or.jp/kohoshi/>

※()はNTの入手場所

キーワードは、「地域」です。

平成31年度東京都支部事業計画

昨年度、東京都支部130周年を契機に策定した「東京都支部近未来ビジョン130」。そのなかで示した「人々に安全・安心を与えられ続ける存在」をめざして、私たちは今年度のキーワードを「地域」と決めました。

これまでの経験で培ったものを活かし、地域で暮らす皆さまのためにできることを本気で考え、全力で実行していきます。

例えば、

地区への災害救援用資材の品目を大幅に増やし、地域防災力の向上に寄与します。

町会・自治会などの自主防災組織を対象に開催する防災・減災セミナーの開催を増やします。

その他の分野でも、ジミチさとヒタムキさをもって、安全・安心な社会を創ることに貢献していきます。

平成31年度 東京都支部歳出予算 内訳

救護・救援活動	584,932千円	34.8%
奉仕団・青少年赤十字の支援	189,006千円	11.2%
救急法等講習会の実施	73,199千円	4.4%
献血推進	22,194千円	1.3%
看護師養成	14,400千円	0.9%
赤十字会員の加入促進	185,658千円	11.0%
広報活動	65,456千円	3.9%
社会福祉施設の運営	89,931千円	5.3%
社屋修繕	37,463千円	2.2%
資金積立金（災害等・施設整備）	70,000千円	4.2%
活動の運営管理	350,761千円	20.8%

※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しています。

事業計画について
詳しくはコチラ



日本赤十字社東京都支部では、未曾有の被害が予想されている首都直下地震等の大規模災害に備え、これまでの各地域への災害救援用資材を従来の4品目から12品目に拡充し、予算規模も既存の約4倍に増やすこととしました。

今後は自治体の防災部門と連携しながら、状況に応じて中長期的な整備を進めてまいります。

お寄せいただいた寄付金によって、次のような災害救援用資材を各地域に配備することができます。
災害から多くの「いのち」を守るために、何卒ご協力をお願いいたします。

避難所用テント（ひなんルーム）

10,000円



避難所内でのプライベート空間を確保することができ、目隠しシートをかけることで着替えや授乳等でプライバシーを守る。
寸法（cm）：W205×D205×H155

ポータブルトイレ

200,000円



※写真はイメージです
提供：日本セーフティー株式会社

排泄ごとにラップ（防臭フィルム）で包み、水を使わず臭いと汚れを完全密封。専用バッテリーや車のシガーソケットからも電源の確保が可能。

LED投光器

400,000円



※写真はイメージです

360度をむらなく照らし、高さ・明るさ調節も可能な投光器で、静音モードにも切替が可能。避難所や仮設診療所で重宝する。

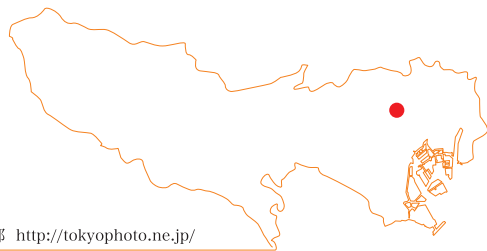


土曜日の午前9時。この時間帯の新宿が見せる顔を、この朝初めて見たのではないと思う。
金曜夜の気配を残した路上には生々しいゴミにカラスが群がり、仕事を終えたホストの団が朝日の中を駅に向かう。それと入れ違いに、週末を新宿で過ごそうとやってくる人々がいる。
このとき、新宿では2つの日付が緩やかに入れ替わろうとしていた。
高層ビル、飲み屋街、デパート、家電量販店、映画館…。「新宿」と聞いて思い浮かべるイメージは、人それぞれ。関東大震災の被害を免れたことが、今の繁栄に繋がっているという。多くの鉄道会社のターミナル駅であり、都庁移転に伴い副都心と呼ばれるようになった。
10年以上前に撮影した写真に写るランドマークの建物が姿を消しても、季節になると芽吹く植物のように新しいものが取って代わり、新宿という街がその機能を失うことはないのだ。いままでも、そしてきっとこれからも。

+ 東京観光写真倶楽部 TOKYO SIGHTSEEING PHOTO CLUB

写真とはまさに「光を観ること」。東京を〈観光〉しながら撮影を楽しむことを目的とし、2005年に発足した同倶楽部は、東京諸島を含む都内各地で撮影会を開催している。部長を務めるのは、日本赤十字社契約写真家である菅原一剛氏。東京の写真を取り続けている同倶楽部とコラボレーションした連載が、Rediscovery TOKYOです。

菅原 一剛HP <http://ichigosugawara.com/> 東京観光写真倶楽部 <http://tokyophoto.ne.jp/>



第14回 新 宿

赤十字職員からNT読者の皆さんに、お役立ち情報をお伝えする「職員通信」。第4回は自治体との連携窓口となる地域推進課の渡邊 格職員がお届けします。

職員
通信
Vol.4

新たな災害救援用資材の 配備がスタート

各

地で災害が多発するなかで日赤が災害現場や避難

所へ出向く機会が急増。現場での経験から、「被災された方々に必要な支援は何か」を模索し続けてきました。

その結果、「避難所への支援」をキーワードに、各地域への災害救援用資材8品目を新たに選定。予算規模も約4倍に増やすこととしました。

災害が起きてからでは間に合いません。発災時の救護活動はもちろん、平時からの備えについても、気づき・考え・実行する。東京都支部は自治体の防災部門と連携しながら、これからも都民の安全・安心に寄与する取り組みを進めていきます。

新たに追加された災害救援用資材

避難所用テント (ひなんルーム)	避難所用テント (プライベートルーム)
ポータブルトイレ	電動アシスト付き 自転車
エアー ストレッチャー	ワンマン ストレッチャー
LED投光器	発動発電機



平成31年度の優先配備品目の
避難所用テント(ひなんルーム)

※これまでも、災害救援車両、災害救援屋外テント(2種)、災害救援用炊出釜を配備してきました。さらに今回、8品目を加えました。

今回、お届けしたのは…

日本赤十字社東京都支部 地域推進課 地域事業係長

渡邊 格 わたなべ かく

血液センターを経て、2011年から東京都支部に勤務。東日本大震災での現地派遣をはじめ多くの災害において活動経験を重ね、現在は第2ブロック支部先遣要員、災害医療コーディネータスタッフなど、日赤の災害救護活動における重要な役割を担う存在に。現職に就いてからは、地域の皆さまの安全・安心を守るため、都内各地で防災・減災の普及活動に情熱を注いでいる。

災害救援用資機材について、P29で今号から順番にご紹介していきます。ぜひご覧ください。

